

## 第 3 回 自動車関係税制のあり方に関する検討会議事概要

- 1 日時 平成 25 年 7 月 12 日 (金) 10 時～12 時
- 2 場所 合同庁舎 2 号館 7 階 省議室
- 3 出席者 神野会長、鎌田委員、熊野委員、小山委員、中村委員、大塚委員、小西委員、佐藤委員、勢一委員、諸富委員、宗田委員、鈴木委員
- 4 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ①第 1 回及び第 2 回検討会で寄せられた質問等に対する説明について
    - ②自由討議
  - (3) 閉会
- 5 議事の経過
  - 事務局並びに宗田委員及び鈴木委員より、第 1 回及び第 2 回検討会で寄せられた質問等に対する説明を行い、その後、質疑及び自由討議が行われた。  
  
(以下、質疑及び自由討議)
    - 軽自動車は、地域の足として大変大事な機能を果たしているとは思いますが、他の種類の自動車が頭打ち、あるいは減っている中で軽自動車が増えているということは、他の自動車と使い方、所得、購買層が代替的になってきているのではないかと。
    - 小型自動車であれ、軽自動車であれ、走行距離から言えば、営業用は自家用に比べてはるかに走り回っていると思われるため、例えば道路損傷負担金的な性格のところは、もう少し共通にするなど、自家用・営業用の格差については、今後の議論の中で考えていく必要があるのではないかと。
    - 自動車としての性能という点では、昔は小型自動車と軽自動車の間で性能差があったが、現在では、660ccでもスピードは出るし、居住性もいいし、重量についても全然遜色がない。「昔は小型自動車と軽自動車では差があったが、今はそうではない」という点がポイントではないかと。

- 小型自動車と軽自動車とで重量の差がなくなっているということは、道路損傷という観点で見れば同じということにならないか。
- 最近では、地域の公共交通の廃止路線が増え、軽自動車に頼らなければ生活が成り立たない地域もあることから、軽自動車の増加にも地域差が大きいのではないかと。公共交通と軽自動車の環境貢献を比較してどのように見るかについては、難しい面があるのではないかと。
- 軽自動車といえどもそれなりに環境負荷があり、場合によっては一家に数台あるということもあるが、環境政策上からは、「環境性能がいいから増えてもいい」ということにはならないのではないかと。

(以上)